



研究者名※	岩崎 純衣 IWASAKI Sumie	学位※	博士(文学)
所属※	人間社会学部 心理学科	職名※	助教
連絡先	iwasakis@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/sumieiwasaki		
研究分野※	実験心理学		
研究キーワード※	進化・発達・比較認知		
共同研究・競争的資金等の研究課題	メタ認知の進化過程の解明に向けた比較認知科学研究(日本学術振興会・特別研究員奨励費(RPD)・2020年4月－2024年9月) 自閉症児におけるメタ認知の認知的・神経的特性の解明(科学研究費・若手研究・2020年4月－2025年3月) 鳥類におけるメタ認知能力の比較研究(日本学術振興会・特別研究員奨励費(DC2)2012年4月－2014年3月)		
社会貢献・産学官連携活動等	日本鳩レース協会誌「レース鳩 4月号」への寄稿文「比較認知心理学からみたハトの”こころ”」(2018)		
受賞歴	関西心理学会 研究奨励賞(2013年11月) 日本動物心理学会 優秀発表賞(2010年8月)		

研究領域	(SDGs)
研究テーマ※	動物やヒト子どもにおけるメタ認知研究
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 メタ認知とは、自身の認知状態をモニタリングしコントロールする高次の認知機能である。正確なメタ認知はスムーズな問題解決を可能にするため、学校教育場面では児童・生徒の学習を促進し、さらに近年、非行・犯罪の再犯抑制に役立つ可能性が指摘されているなど、重要な認知機能の一つである。これまで児童期から成人にかけて多数のメタ認知研究が行われ、様々な理論やメカニズムが検討されてきた。しかしその一方で、メタ認知の進化や幼児期の発達過程といった“メタ認知の発生過程”については不明な点が多い。そこで、どの動物種でどのようなメタ認知行動が見られるか、またメタ認知能力が幼児期を通してどのように発達するかという知見を収集することにより、メタ認知機能の進化を促した要因を考察する。 【応用例、研究の展望】 またメタ認知は学校教育において学習を促す能力として注目されていることから、将来的にはこの発達過程に関する知見をもとに児童・生徒に対する効果的な学習法や非行・犯罪の防止につながる支援法を提案できるかもしれない。 【研究方法の特色】 ヒト成人におけるメタ認知研究は言語を用いた報告によって行われるが、本研究は難しい問題への解答を回避したり、問題解決のために新しい情報を集めたりするといった“行動”をもとにメタ認知を検討する。行動指標を利用することで、言語報告ができない動物や内観報告が拙い幼児でも研究することが可能になる。
本研究関連特許・論文等	・Iwasaki, S., & Taniuchi, T. (2023). Rats did not show evidence of prospective information-seeking: A pilot study. <i>Frontiers in Behavioral Neuroscience</i>, 17, Article 1253780. ・Iwasaki S., Kuroshima H., Arahori M., Fujita K. (2020). Prospective information-seeking in human children (<i>Homo sapiens</i>): When to seek and what to seek. <i>Journal of Comparative Psychology</i>, 134, 341-348. ・Iwasaki S., Watanabe S., Fujita K. (2013). Do pigeons (<i>Columba livia</i>) seek information when they have insufficient knowledge? <i>Animal Cognition</i>, 16, 211 -221.
共同研究・外部機関との連携への期待	・金沢大学